第６９回“社会を明るくする運動”

明石地区推進委員会　中学生作文コンテスト優秀作品

（明石市：優秀賞／兵庫県：佳作）

「優しい社会」

明石市立大久保中学校　佐伯 真郁

みなさんは、“トンビが鷹を生む”ということわざをご存知だろうか。意味は平凡な親がすぐれた子を生むことのたとえである。

私は、あるテレビ番組でそのことわざについて話している大学生を見ていた。大学生はこう言っていた。

「トンビが育てたのはトンビ。でも、トンビの育て方が上手だったから鷹っぽくなった。というのが正しいと思う。」

これをきいて私は衝撃を受けた。私は今までトンビがある日突然変異をして鷹になったのだと思っていたからである。環境によって、トンビになるのか、鷹になるのか決まるんだなと感心していた。

これは、犯罪にも関係するのではないだろうか。犯罪者はある日突然変異をして罪を犯してしまうのではなく、日々の環境の中で何かが積もりに積もって爆発し、罪を犯してしまうのだと思う。つまり、私たちのちょっとした行動や言葉で犯罪者をつくってしまうのかもしれない。ましてや、今の時代、ＳＮＳが普及しているため、心無い一言で私たちの知らないところで傷つく人や、犯罪者をつくってしまうかもしれないのである。

また、罪を犯してしまった人には、子供時代の追い詰められた経験、悲しい気持ちのまま放置された経験があると推測される。そんなつらい経験をした心に癒しを与えなければ、罰を与えるだけでその人は救われない。

だから､同じ過ちを繰り返すことにつながってしまうのではないかと思う。

世間は、犯罪者に反省と罰を押しつけ、とりあえずその様子をみれば、「問題は解決した」「ひとまず安心」「厳しい罰を与えれば大丈夫」と思っている｡その姿勢が､考え方が犯罪者を増やしてしまうかもしれないのに。

多くの人は強く完璧であろうとする。そうであれと人に求める。でも人は弱い。だからこそ、弱いことは悪いことではない、弱くても別にかまわないという考え方をもってほしい。そして、弱さやありのままの自分を受け入れる自分になってほしい｡相手も受け入れられる自分になってほしい。犯罪は、日常のちょっとした出来事から始まる。もし、人の弱さを前提にした態度を多くの人がとるようになれば、未来の犯罪者を減らすことにつながると思う。また、どんな人でも生きやすい世の中に近づくことができるだろう。

真の優しい社会とは何なのか。私は、すべての人が繋がりを大切にし、安心して暮らせる社会だと思う。そんな社会を実現するためには、まずは国や自治体が制度を整備する必要がある。しかし国や自治体の努力だけではそんな社会を実現することはできない。私たち１人１人に社会の構成員として、より多くの人が幸せな人生を実現できるよう、他者を尊重し、苦境におかれた人を助ける努力をすることが求められている。

すべての人が幸せな人生を過ごせるように私たちは物事の見方を、考え方を、価値観を改めていかなければいけないと思う。